

ラグビーの歴史と日本がラグビー強豪国になるためには

The history of rugby foot ball & What should Japan do to become one of the rugby strong country in the world?

1K05B138

指導教員

主査 寒川恒夫先生

田中 渉太

副査 石井昌幸先生

日本が強豪国になるためにはというテーマからこれまでのラグビーの起源・歴史というものを見ていき、世界と日本とのラグビーの環境、人気、競技人口などを比較し、そこから日本に必要なことやすべきことを考えていきます。

第一章 ラグビーの歴史

第一章では、ラグビーの起源。ラグビーの始まりである、エリス少年がフットボールの試合中にボールを持って走ったことでラグビーが生まれた説から、日本のラグビーの起源から現役時代は世界選抜にも選ばれた世界的有名選手の吉田義人話や、日本ラグビー界で最も長い監督暦である元明治北島忠治監督の話などおおまかに日本ラグビーのこれまでを話してラグビーのルールを分かりやすく話していこうと思います。

また、今年から日本でも行われることになった実験的競技規則＝ELV についての13 項目の説明をしてから実際にこの実験的競技規則＝ELV が試合に与える影響のことから、この実験的競技規則＝ELV を行うことよっての理想としていたこととは異なる、今起こっている試合での現状をこの第一章では話していこうと思います。

第二章 日本の戦力・戦略・選手分析

第二章では日本のラグビーのこれまでの成果や現在の状況をふまえた日本ラグビーの事情や日本代表の中心選手、と身体の小さい日本代表が世界で戦うために現在行っている戦略、そしてこれから代表の試合も実験的競技規則が世界の舞台で行われていくが、日本が世界で戦うために

重要なエリアやセットプレーといった戦略・戦術のことを話します。

第三章 世界で戦っていくために

第三章では、日本が世界で戦っていくにあたり、重要とさせるウィークポイントをコンタクトのことについて、80分間戦うためのコンタクトフィットネスが必要である。大きな外国人選手をディフェンスでとめるためには、2人、3人とどうしても人数が必要になってしまうため、一人一人の運動量が必然的に増えてしまう。なので、このコンタクトフィットネスが絶対的に日本代表には必要ということ。またこれらの改善策についてあげていきます第三章を進めていく。

第四章 日本のラグビーが強豪国になるためには

第四章では、日本ラグビーが強豪国になるために必要なことを海外のラグビー人気や環境との比較を行う。日本はニュージーランドやオーストラリアに比べてラグビー人気はとても低い、それは街中や普段の生活を見ても明らかであり。海外のラグビー人気は生活の一部になっているほど強烈な人気である。このことから人気の違い日本には何が足りないのか何が必要なのか、日本の問題をあげていき強豪国になるために日本のラグビー人気というものが必要不可欠ということを中心に考えた。どうすれば日本でラグビーの認知度が上がるか、人気というものが上がるかを考え。人気獲得のために日本ラグビー協会をはじめ、トップリーグに必要とされる。ファンがより満足させら

れるかのファンサービス、青少年をはじめとする選手たちが安心してラグビーができる環境、日本ラグビーというものをもと知ってもらうためのメディアと使い方などについて、人気というテーマを中心とした話の流れになっている。

第五章 結論

第五章ではこれまで話してきた日本が強豪国になるためには、実力も必要であるが、私が最も重要視したのは日本のラグビー人気である。日本代表が強くなるために良い選手が必要である。良

い選手を増やすためには競技人口を増やさなくてはならない、そのためには日本のラグビーというものに人気がないといけないと思ったからである。この人気を獲得するために日本ラグビー界のトップをはじめとする。様々なラグビー関係者が行うべきことをあげていく。日本のラグビーはもっとメディアを使ってラグビーというものを広めることが少なく、また地上波の放送はほとんどあっていない。このようなことから、日本のラグビーに必要なことやるべきことをあげ、結論を述べていこうと思う。